

1. 令和3年度学習状況調査の結果から

Table with columns for years (2, 3, 4, 5, 6) and rows for subjects (国語, 社会, 算数, 理科) and survey questions. Includes data on national averages and specific student performance metrics.

2. 調査結果のまとめと分析 【赤字は結果分析における本校の特徴的な点とさらなる改善の方向性】

- ①令和2年度に比べ、同一集団内の全国平均正答率との比較で改善が見られた学年・教科は以下のとおりであった。
②学年による学力の差に開きが見られる。また、二極化が疑われる教科・学年が見られる。
③国語科では全体として、知識・理解・技能を中心に着実に学力が身に付いている。経年比較では3、5年生が伸びている。
④算数科は各学年とも全国平均並みかそれ以上だが、伸び悩んでいる。経年比較でも3～6年生すべての学年で伸び悩んでいる。
⑤社会科は4、5年生が良い成績である。理科は4～6年生すべてで全国平均を下回っている。経年比較では社会科は5年生が伸びている。
⑥意識調査から先生や家族や友達とのささえを受け、規範意識があると感じる児童が多い。
⑦読書の量がやや少ない。
⑧家庭学習力の充実が不可欠であるが、意識調査ではなお低い。

3. 分析 【赤字は結果分析を踏まえ、「学力向上を図るための全体計画」を見直した点】

- ①基礎学力向上を図るために一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、授業と家庭学習の連携を計画的に実施し、日常の教科学習で振り返りシートを活用するなど補足的な取組を行い、D・E層の児童数を限りなく0に近づけさせていくことが必要である。
②全教科を通して活用力のうちの「表現力」に着目し、自分の思いや考えを確実に文章に表すことや、文章を丁寧に読んで考えさせる活動、話し合い高め合う活動の時間を確保するなど、授業の質的な向上を目指していく。
③児童の知的好奇心を引き出し、一人一人に課題をもたせ、問題解決型で達成感のある授業の改善に努めていく。
④東京未来大学との共同研究で進めてきた意欲的な学習態度に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表したり、カードやワークシートの記入の仕方、自己の考えを分かりやすく相手に伝える授業を構築する。
⑤朝学習での読書活動や日常の読み聞かせ活動の他、一人一人の読書量を増やし、読書や辞書引き学習の充実・励行に努める。
⑥家庭と連携し、自ら学ぶ力の育成のために、家庭での振り返りシート等を活用し、アウトプットをさせる学習習慣の確立を図る。
⑦社会科、理科では、なお、目標値に届いていない学年がある現状を踏まえ、一層の社会的事象の理解、実験・観察の充実や授業終了での問題解決の検証・確認など、プロセスの見直しを図り、児童の考えが深まるよう授業の質の向上に努めていく。

4. 令和4年度 墨田区学習状況調査の目標

本校のすべての学年で国語科・社会科・算数科・理科ともに平均正答率を目標値以上にする。

5. 目標を達成するための具体的な取組 【赤字は結果分析を踏まえ特化する取組】

- (1) 日常の指導の充実のための取組
①授業展開の改善点を全校体制で検討し、指導に当たる。ア、校内研究を今まで以上に充実させ、一つ下の学年に学力調査の課題を伝え、研究成果が日頃の授業実践に生きる「研究の日常化」を実現させる。イ、低・中学年には少人数指導や個別指導を通して個に応じた指導の充実を図り、振り返りシートを活用し基礎学力の充実を目指す。
②学習形態の多様化を図る。ア、問題解決学習や体験学習を多く取り入れ、児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断できる能力の育成に努める。イ、各教科の学習において、学習の成果を発表する機会を設定し、楽しさとやりがいを感じながら学習を進められる環境作りを努める。ウ、全教科を通して「書くこと」に重点を置き、自分の考えや感想を文章に表したり、ノートやワークシートの記入の仕方を継続的に指導する。
③全校体制で読書指導の充実を図る。ア、学校図書館を整備し、週三日勤務の司書を活用し、読書指導を推進する。イ、朝学習での読書活動の定着を図る。ウ、地域人材を活用した読み聞かせ活動の充実と読書習慣の定着を図る。

6. 設定した目標の達成度を測るための指標

- (1) 日常指導の充実
①単元ごとの評価テストで80%以上の児童が期待得点以上の成績を獲得できるよう日常の指導の充実を図る。
②低学年の読書量は年35冊、高学年20冊以上を目指す。
③校内研究・学習意欲を高めるための指導に基づく授業研究を推進し、全員が年1回は研究授業を行う。